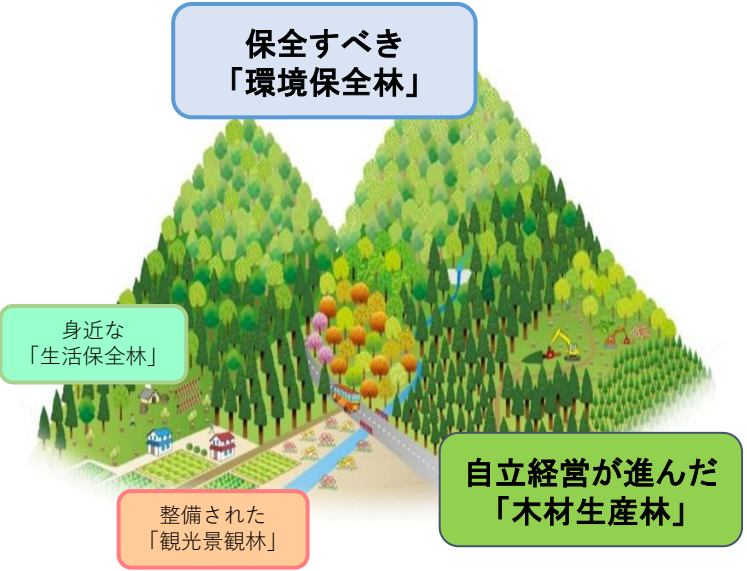


# 新たな林政の基本計画の策定に係る考え方（たたき台）

現在「100年先の望ましい森林の姿」を目指し、保全すべき「環境保全林」と林業に適した「木材生産林」などに区分した森林づくりに取り組んでいる。現状と課題を踏まえ、今後5年間の次期基本計画を策定する。

<100年先の森林のイメージ図 >



## 【現状と課題】

- 県土の約8割を占める森林における多面的な機能の発揮（土砂災害の防止、水源の涵養、生物多様性の保全など）は、県民の安全・安心で豊かな暮らしの根幹。
- 森林から生まれる木材資源は重要な自然資源であるが、戦後に植林された人工林の約7割が植栽後50年以上を経過しており、「植え過ぎの伐らなさすぎ」の状態が多く見られ、多面的機能の低下が懸念される危機的な状況。
  - (1) ○所有者不明森林の増加などにより、森林の集約化や整備が進みにくい状況。
    - 集中豪雨が激化・頻発化し、大きな社会課題となる中、県民の意識調査においても、「土砂災害の防止」が最も求められており、森林の防災機能の維持・強化は不可欠。
  - (2) ○人口減少に伴う住宅着工戸数の減少により、住宅用の建築材への利用を中心にしてきた林業・木材産業は木材のエネルギー利用や、成長の早いスギの大径材の活用など、多様な活用に向けた転換期。
  - (3) ○山村地域の人口減少が続く中、森林空間を活用したアウトドア観光や自然体験などへの関心が拡大。
    - 不登校やいじめ問題、企業のメンタルヘルス対策などの社会課題に対し森林空間がもたらす効果が注目されている状況。
    - 企業では、環境保全活動等へ貢献することにより企業価値の向上を戦略的に図ろうとする動きが活発化。

## 【目指すべき方向性】『多様なニーズに応える森林づくり』～森林の多面的機能を生かした社会課題の解決を目指して～

- (1) 多面的機能が発揮できる健全な森林づくりを実現する
- (2) 木材需要の新たな創出と需要に応じた森林づくりを実現する
- (3) 森林が有する様々な価値を最大限活用し、地域社会・経済への貢献を実現する

### (1) 森林づくりの推進

- 安全・安心の森林づくり
  - ①防災・減災のための山地災害対策の強化
  - ②多面的機能向上のための針葉樹人工林の針広混交林化・広葉樹林化の推進
- 森林を生かす整備と活用
  - ③森林の所有者不明問題の解決等による森林の集約化の推進
  - ④資源の循環利用に向けた主伐後の再造林の推進（獣害対策・花粉発生源対策含）

### (2) 林業・木材産業の振興

- 林業の振興
  - ⑤効率的な木材生産の推進
  - ⑥森林資源のエネルギー利用の推進
  - ⑦成長が早く性質が優れた樹種の育種・育苗の推進
  - ⑧きのこなどの特用林産物の安定的な生産の推進
- 県産材の需要拡大
  - ⑨-1 川上・川中・川下の連携による加工・流通の体制強化
  - ⑨-2 大径材の活用に向けた取組の推進
  - ⑩-1 住宅の新築・改修における県産材の需要拡大
  - ⑩-2 非住宅木造建築物の建設促進と県産材の需要拡大
  - ⑪広葉樹の付加価値を高めた活用の推進
- 技術者の確保・育成・定着
  - ⑫次世代を担う技術者の育成

### (3) 森林の新たな活用

- 森林の新たな価値の活用
  - ⑬森林の多面的活用
    - 多様化する企業ニーズと連携した森林の活用（森林サービス産業、G-クレジット含）
  - ⑪広葉樹の付加価値を高めた活用の推進【再掲】
  - ⑥森林資源のエネルギー利用の推進【再掲】
- ぎふ木育の推進
  - ⑭ぎふ木育の推進